第13回地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会

学校応援団「ふるさとホットライン」の活動について

令和2年2月29日

国東市立武蔵西小学校　校長　溝部剛

発表の流れ

1.「ふるさとホットライン」の成り立ち

2.「ふるさとホットライン」の活動

3.地域への情報発信

4.地域の方の声

5.まとめ

「総合的な学習の時間」の創設

学習指導要領改訂
平成10年（1998年）告示

平成14年（2002年）実施

・完全学校週５日制の下で、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、子どもたちに学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることはもとより、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育む。

各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、国際理解・情報・環境・福祉・健康など横断的・総合的な学習などを実施する「総合的な学習の時間」の創設

ここから、校内研究が始まった！

校内研究のあゆみ（平成11年度）

■平成12・13年度の2年間の移行措置期間を前にして
・ふるさと意識を醸成するための「総合的な学習の時間」の内容の研究
・「総合的な学習の時間」の教育課程のモデル作成

■年次計画
・1年次　ほたるを中心に据えた「総合的な学習の時間」の学習活動の計画案の作成と実践
・2年次　ほたるの「総合的な学習の時間」の検証と蛇谷太鼓・農業体験学習の計画案の作成と実践
・3年次　ほたる・蛇谷太鼓・農業体験学習等の検証
・4年次　「総合的な学習の時間」の完全実施と検証

生産点
1. 総合的な学習の時間の捉え
2. 学び方を学ぶ
3. 学びのまとまり「ユニット」
4. 課題づくりのための教師の支援
5. 指導案の書き方と教育課程の作成

校内研究のあゆみ（平成12年度）

■研究の柱
1.「学び方」を学ぶための学習過程
2. 体験を取り入れた問題解決のための子どもの活動の流れ
3. 人権・同和教育の視点を根底に据えた活動の組み方
4. 各教科との関連
5. 子どもが生き生きと学ぶための教師の支援の在り方
6. 評価の在り方
7. 地域との連携の在り方

☆ふるさとホットライン（地域の人材）をゲストティーチャーとして活用
☆学校と地域が共催する行事を学校で
☆学校と地域が共催する活動を地域で
☆子どもたちが学習を地域で展開

ここから、「ふるさとホットライン」が始まった！

「ふるさとホットライン」の活動

■当時の資料では

1．趣旨

平成14年度から施行される新学習指導要領では、生活体験や自然体験を通して、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決していく力「生きる力」の育成を目指しています。

今、指摘されているように、**今の子どもたちは日常での体験が少なく、工夫してものを作ったり、使ったりすることや、汗を流して苦労したりすることがなくなってきました。また、川や山で遊ぶことも少なくなりました。**こうした子どもたちの生活を変え、地域の方々との交流やいろんな生活体験・自然体験を通して、自分で物事を解決していく力をつけることが大切です。

新学習指導要領では、こうした趣旨を踏まえて「総合的な学習の時間」という学習が創設されました。この「総合的な学習の時間」と各教科、道徳、特別活動との調和を図りながら進めることが大切です。1～2年生においても「生活科」を通して、体験活動を重視した授業の創造を目指しています。

本校では、ホタルを通しての環境教育、もち米や椎茸栽培の農業体験、蛇谷太鼓の伝承などを中心に置き、体験を通して「生きる力」をつける教育活動を展開しています。また、そのためには、地域の方々との気軽な交流が重要であり、学校と地域を温かく結ぶ、「ふるさとホットライン」を創設し、地域の人々との交流を通して「ふるさとを愛する子ども」を育てることを目指した教育活動を進めます。

「ふるさとホットライン」の活動

■当時の資料では

２．ふるさとホットラインの活動内容

・田植えや稲刈り等を一緒にしてくれる方
・戦争体験や当時の食事等について話してくれる方
・遊び道具を作ったり、手作りおもちゃを一緒に作ってくれる方
・花や野菜の苗、種等を分けてくれる方
・昔の遊びを教えてくれる方
・武蔵ネギの作り方を教えてくれる方
・蛇谷の様子を子どもたちに話してくれる方
・子どもと一緒に調理をしてくれる方
・ほたるの事について子どもに話してくれる方
・朝の街頭指導で子どもたちに声かけをしてくれる方
・武蔵の昔話を子どもたちに話してくれる方
・施設や仕事等の見学をさせてくれる方
・子どもに読み聞かせをしてくれる方
・植木の剪定などにご加勢をいただける方
・その他、子どもたちのために協力をしていただける方

組織づくり

☆15種類の活動
☆個人で36名、2団体の登録

実際の活動

☆ほたるを通しての環境教育

総合的な学習の時間

1学期に、ホタルを通して環境教育をしてきました。その続きで、昔の川の様子をおうちの人に聞いたり（アンケートはお世話になりました）、末綱元校長先生にお話を聞いて、ホタルの幼虫を見せてもらったりしました。
10月の初めに行きました。
まとめていくつもりです。
（今までしてきたことを）

これからの
総合的な学習の時間

今年は、年間35時間です。ご存じのように、日課表には、週1時間あります。だけど、毎週あるものでもないし、続けてすることもあります。これからは、農業体験を中心にしていく計画です。ご協力、よろしくお願いします。

☆「蛇谷太鼓」の伝承

☆農業体験活動～米作り～

☆農業体験活動～しいたけ栽培～

地域への情報発信

☆大分合同新聞

武蔵西小に

ふるさとホットライン

地域の人を講師に

「子どもに生の体験教えて」

田原さん、戦争の話、昔の遊び道具作り。武蔵町の武蔵西小学校（廻上定校長・七十五人）は、さまざまな生活・自然体験を教えてくれる地域の人を講師している。同校に新設した「ふるさとホットライン」に登録して、四月から臨時、校外学習の"講師"になってもらう。

ホットラインは、年間を通して、積極的に体験学習に取り組むための、人材バンク的なもの。「ふるさとを愛する子どもの育成と同時に、地域と学校がふれあいを深めるきっかけにしたいと考えている。新年度から「総合的な学習の時間」が始まるのを契機に計画した。

具体的な体験テーマは、①地区に住む高齢者や歴史文化のこと②米、野菜、花の栽培③同校が力を入れている「ホタル」について④各種施設や仕事の見学など。

廻上校長は「今の子どもは、日常での実体験が少ない。地域の人の生の体験や活動を通して、工夫して物を作ったり、汗を流して苦労する大切さと楽しさを教えてほしい。気軽な気持ちで加勢をお願いします」と話している。

校区外の人も歓迎。今月末締め切り。連絡先は、武蔵西小（☎0978・69・0310FAX69・0380）の中川教頭まで。

「教室で学べないことを教えてほしい」…昨年12月、地域のお年寄りを招いて開いた郷土料理教室

大分合同平成１２年３月１０日朝刊

ホットラインは、年間を通して、積極的に体験学習に取り組むための人材バンク的なもの。ふるさとを愛する子どもの育成と同時に、地域と学校がふれあいを深めるきっかけにしたいと考えている。

生態を研究、成果発表

武蔵西小

武蔵町の武蔵西小学校（廻上定校長・七十人）で四日、第二十五回ほたる祭りが開かれた。

同校では、「ホタル」を教材に環境問題や生命の尊さを学習。毎年、祭りに発表会を招いて成果を発表している。

今年は、川の水質保全に果たす森林の役割が大きいと知った児童らが、「森を大切に川をきれいにしてホタルの光を楽しもう」をテーマに、調査研究を進めた。

学年ごとに、近くの川で実際に見つけたホタルの生態、祖父母や両親に聞いた昔の川やホタルの飛び交う様子、汚れた川の水の行方などを、劇や歌を交えて発表。「ホタルがすめるよう川にごみは捨てないでと呼び掛けた。

ホタルの生態などを発表

大分合同平成１２年６月５日朝刊

「シイタケの収穫楽しみ」

武蔵西小 人工ほだ場が完成

人工ほだ場でシイタケができ始めたほだ木に見入る児童ら

大分合同平成１２年12月12日朝刊

地域の方の声

☆「ふるさとホットライン」に参加して

田城ソノ子（67歳）

平成12年3月に学校から、「ふるさとホットライン」入会のお誘いがありました。
〇地域の人の力をお借りして学校教育に生かしたい。
〇児童との触れ合いを深めたい。
〇埋もれたままの貴重な宝が地域にはたくさんある。それを子どもに触れさせたい。
〇地域には名工がたくさんいる。その力をお借りしたい。
等の説明を聞き、地域の人々を活用するホットな学校教育のあり方と「ふるさとホットライン」という言葉に心をひかれました。孫が小学3年生で、時々PTA等に出席して、校長先生、教頭先生、その他の先生方にお会いし、その優しさ、明るさに親しみをいつも感じておりました。「この際、私で役立つものならば！」と入会を考えて仲間に呼びかけ、相談したところ、15人が賛成してくれ、私は世話人代表として申し込みました。

今、高校3年生と1年生の孫がいますが、その子が小学校の頃のPTAでは、学校にそっと入り、先生方に遠慮しながらじっとして何もしゃべらず帰っていました。学校は何か別の世界のように感じられました。67歳になり老人として歳を重ねる寂しさを感じていた時、この入会のお勧めで、私は少しの不安もありましたが、かわいい子どもと触れ合う楽しみが希望につながり、入会しました。

地域の方の声

☆「ふるさとホットライン」に参加して

田植えの時が来ました。「6月20日に子どもたちの田植えを手伝ってください。」ということで、私たちは「おこびり」作りと田植えの組に分かれて作業を始めました。私は昔使った「みの」「たころばち」「苗持ち」などがあったので洗って持って行きました。公民館で「おこびり」のおにぎりを作り、田植えの現場へ行きますと、泥まみれになりながら田植えをしていました。会員は手を取り、植える本数・深さ・間のあけ方などを丁寧に指導していました。慣れない手つきで泥に深くなったり、浅くなったり、声を上げながら差し込んでいました。しばらく植えてから「およかい」の時間にし、持っていった「みの」「たころばち」を着て、（略）「苗持ち」で泥田の中は歩きにくくバランスが取れずふらふらしながら大声を上げて楽しそうに歩いていました。（略）田植えが終わって「おこびり」をいただく時間です。田植え歌をみんなで歌いました。（略）広いきれいな空の下で「おいしい。おいしい。」とほおばっている子どもの姿は、自然の中でしか見られない明るい顔でした。（略）古い道具が薄暗いところから世の中に出て、かわいい子どもたちに触れてもらい、さぞ喜んでいることでしょう。

私も年をとってこのようなお誘いを受け、たびたび学校に行くようになってから何かしら学校が身近に感じられ、その生活に溶け込んだような気がします。そして、今までと違い、道で会った子どもが手を振ってくれたり、学校へ行くと運動場にいる子どもが笑って近づき、「この前はありがとうございました。」と声をかけてくれることがしばしばです。これらの子どもたちが私の孫のように思えて可愛さが一層つのります。今後もできることがあれば遠慮せずに申しつけてください。生きがいをありがとうございました。

まとめ（授業づくりにおける成果）

- パートナーがいることで学びが豊かになる授業
- 人手が必要な授業
- グループに分かれる授業
- 安全管理が求められる授業（水泳・校外活動など）
- 発表練習など、傾聴者が必要な授業
- 〇〇のできる人を講師として招く授業
- 地域の皆さんと協働する授業

など

まとめ（地域にとっての成果）

活動する前は、不安な気持ちで出向きますが、活動後は、児童との触れ合いが何とも心地よく、「できれば、また来たい」と思う人がほとんどです。

活動の有用感が、生きがいとして、生活の張りになります。

パートナーとして学校に集うことで、パートナー同士がつながり合い、人間関係が広がります。

人間関係が広まると、地域での活動に発展することもあります。

「武渓の会」誕生

武渓の会が目指すもの

名前の由来

『武渓の会』

～武蔵西地区のみなさんにとって馴染み深い“武渓”
誰もが気軽に参加できる“会”を目指して～

会の趣旨

ニーズ調査をもとに、地域住民の要望を地域活性化と絡めながら活動していきます。その活動を通じてより多くの方が参加できる会を目指していきます。

愛ことば（スローガン）

『人とひととの交流や助け愛・ボランティアで
生き活き武渓の地域づくり』

目　標

①気軽に集える交流の場をつくり“元気な”
武蔵西地区を目指します。
②地域の野菜や特産品を販売するなど“活気ある”
武蔵西地区を目指します。
③くらしの困りごと解決を検討し、“安心・安全・住みよい”
武蔵西地区を目指します。

今後の計画　スケジュール

平成30年4月より上記目標に向かって武渓の会では出来る事から取組んでいきます。

【目標①】

気軽に集える交流の場をつくり“元気な”武蔵西地区を目指します。

・事業名：『ふれあいカフェ』（案）

・内　容：地域のみなさんが誰でも気軽に集える交流の場として、武蔵西地区公民館の会議室を利用し、定期的にカフェ（挽きたてコーヒー）や食事会を開催します。そして地域の人の顔と顔が見えるふれあいの場をつくり、地域のつながりを強くします。なお、この会は地域の方がボランティアとして当番制で行います。

【目標②】

地域の野菜や特産品を販売するなど、“活気ある”
武蔵西地区を目指します。

・事業名：『地域の野菜・特産品の販売』（案）

・内　容：①自宅で栽培し、食べきれない野菜を交流の場（ふれあいカフェ）などで販売します。
②余った野菜をつけものなどに加工し、特産品として同じく交流の場（ふれあいカフェ）などで販売できるように研修会（野菜加工、つけものなど）を行い自主販売へつなげます。

【目標③】

くらしの困りごと解決を検討し、“安心・安全・住みよい”
武蔵西地区を目指します。

・事業名『くらしの困りごとミニお助け隊』（案）

・内　容：交流の場（ふれあいカフェ）が基点となり、地域のみなさんのくらしのちょっとした困りごとを受け付け、解決するお手伝いをします。

例）①そうじ・見守り・話し相手・ゴミ出しなど
②草刈・農作業の手伝いなど

そして、今なお

「つながり」の場面

子どもの頑張りがい・教職員の働きがい・
地域の方の生きがい

学校にも、地域にも
win-winの関係

人と人のつながり
30年後
豊かな人生を切り拓き
持続可能な社会の創り手となる

ご清聴ありがとうございました。
最後に「閉校記念動画」をご覧ください。